

柏の景気情報（平成21年5月分）

柏商工会議所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成21年5月分）

○ 調査期間 : 平成21年5月18日 ~ 5月22日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	77	72.0%
建設	19	15	78.9%
製造	23	17	73.9%
卸・小売	43	29	67.4%
サービス	22	16	72.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成21年5月の調査結果のポイント】

《業況DIは先月に続き回復 新型インフルエンザ等不安要素あり》

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲59.7(前月水準▲64.3)となり、マイナス幅が△4.6ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種において、マイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、サービス業▲56.2(同▲66.6)、製造業▲58.8(同▲66.6)、建設業▲66.6(同▲68.7)、卸小売業▲58.6(同▲59.2)である。

【建設業】では、「柏市発注時期が他市より早かったのは予定を組みやすく業者も抑えられたので、よかった」(一般土木建築工事業)、「材料は値下がりがりしたものの、仕事が無く業界全体が閉塞状態。公共工事の効果はまだ表れていない」(電気工事業)、などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「改善の兆しはまだ見えない。低水準で推移。ここ数カ月が低値のピークと思われる」(その他の鉄鋼業)、「建築基準法昇降機安全基準改正により、認定に向け人・物ともに大きな経費負担増となる」(一般産業用機械設備製造業)、などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「販売単価の前年比が、購買客数の前年比を下回る状態が続いています。そもそも財布のひもが固いのですが、財布を開いてもより低価格を志向しているあらわれと思われます」(百貨店)、「客数は微増。ただし客単価の減少があり、売上は横ばい。前年月中旬にあったセール先の先送りの影響もある」(その他の各種商品小売業)、「原油価格が比較的落ち着いている点と、非需要期に入り、原産国が弱含みで推移しているため、改定要因が整ったため、6月から還元できる見込み。売り上げ減少分は保安点検で古い器具(不良品など)の交換を説明し、販売増につなげる指導を社員にした」(燃料小売業)、「商品が夏もの変わったばかりではあるが、既に値下げが始まっている。GW期間中の来街者は前年より少なかった」(その他の各種商品小売業)、「売上高は依然続く客単価の低下から苦戦した。GW明けも売上高は天候に左右される日が多く伸び悩んでいる」(各種商品小売業)、「消費者の財布の口がかたい。プラスアルファの買い物をしなくなっている。すなわち、最低限の買い物しかなくなっている」(書籍・文房具小売業)、など多くのコメントが寄せられた。

【サービス業】では、「家庭内での慶弔などの簡略化や少人数化が進んでいる(来客の減少)」(食堂・レストラン)、「前年比予算比とも稼働減特に企業から宿泊減。前年比予算とも減。企業のセミナー・会議・展示会が大きく減少」(ホテル)などのコメントがあった。

◎新型インフルエンザの影響

5月にかけて大きく広がりを見せた、新型インフルエンザの影響について、多くの業種から、「新型インフルエンザ等の心理的影響なのか活気がなく、街全体が停止しているようだ」(電気工事業)、「新型インフルエンザに対する過剰な対応のため人出が減少している。毒性等を早急に見極め適切な方針を政府が打ち出すべき」(書籍・文房具小売業)、「新型インフルエンザによる消費者の買い控えがこれから少しずつ進んでいく気配です」(食肉小売業)、「新型インフルエンザの流行と過剰と思われるような日本の反応により、関西の方で人の動きが制限されています。このことにより、経済の停滞につながる心が心配です」(獣医業)など、インフルエンザそのものに対する不安のみならず、それによって起こる経済の停滞を心配する声が多く上がっていた。

◎経済活性化施策

「定額給付金の支給日の不明瞭さや金額が少額なため、期待が全くできない。支給された他市でも経済効果があったという話がないので、当市でも効果は無いと考えている」(管工事業(さく井を除く))、「定額給付金等は必ずしも景気を刺激するとは言えないようです。今夏のボーナスが軒並み前年を大きく割り込んでいることを考えると、今後についても期待できないように思われます」(百貨店)、「週末(特に日曜日)の落ち込みが大きく、高速道路通行料金割引など影響が考えられる」(各種商品小売業)など、さまざまな経済活性化の対策が施行されている中での、期待薄や悪影響などのコメントが多かったが、「共通商品券に多少効果を期待。店独自でもプレミアを考えている」(酒場・ビヤホール)、のようなコメントもあった。

◎厳しい業況

「経済情勢に加えて、インフルエンザ等暗いニュースばかり目立ちます。業況は厳しい状態が続きます。光を探すより一層の努力が必要です」(板金・金物工事業)、「業界内まだまだ厳しい状況が続いているが、ETC割引、定額給付金等の経済活性化効果に期待」(その他の機械・同部分品製造業)、「昨今の野菜入荷状況は、増加傾向にあるが、単価安となっています。果実は一部に安価取引もあるが、他は入荷減単価高の動きです。全体的に入荷減、取引減と厳しい状況です」(食料・飲料卸売業)、など、依然として厳しい業況におかれていることを表す声も寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲63.6	▲50.0	▲68.7	▲62.5	▲70.5
H21年1月	▲65.3	▲80.0	▲66.6	▲56.6	▲66.6
2月	▲74.3	▲58.8	▲88.8	▲74.1	▲75.0
3月	▲68.4	▲78.5	▲73.3	▲60.0	▲70.5
4月	▲64.3	▲68.7	▲66.6	▲59.2	▲66.6
5月	▲59.7	▲66.6	▲58.8	▲58.6	▲56.2
見通し	▲35.0	▲40.0	▲29.4	▲34.4	▲37.5

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成21年5月の業況についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲59.7(前月水準▲64.3)となり、マイナス幅が△4.6ポイント縮小した。

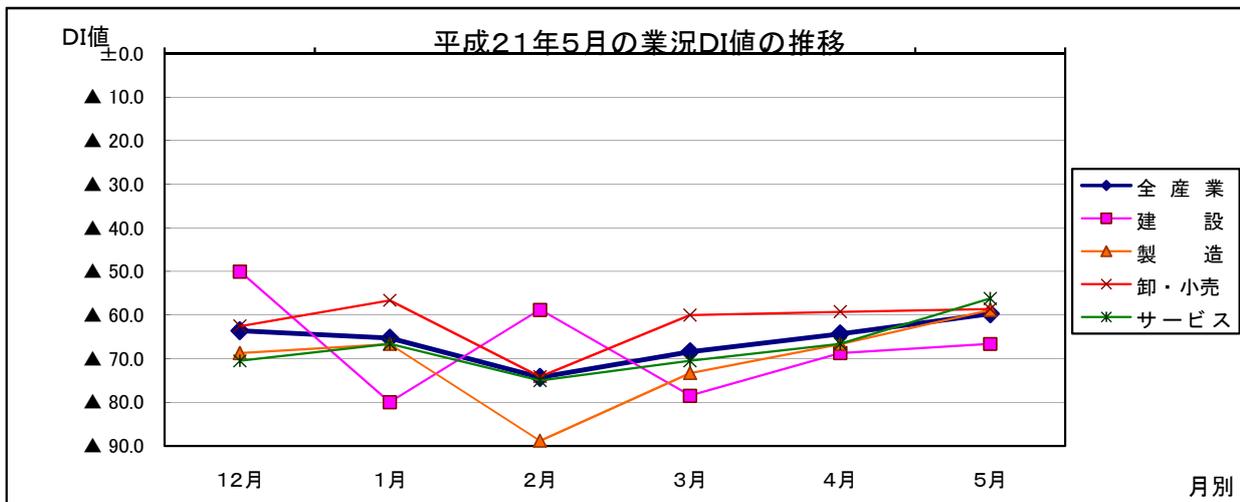
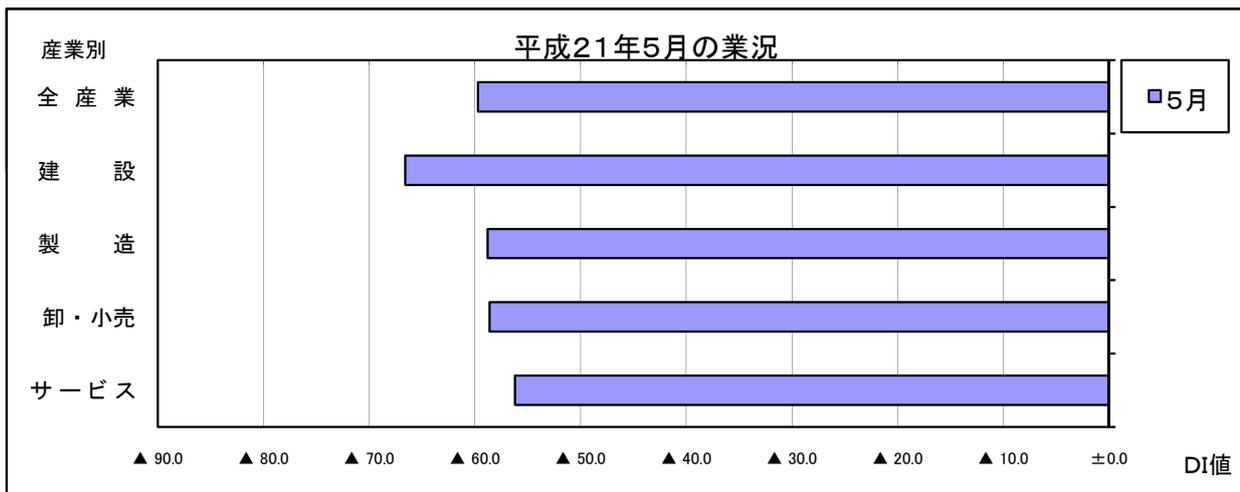
業種別では、前月水準と比べて、すべての業種において、マイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、サービス業▲56.2(同▲66.6)、製造業▲58.8(同▲66.6)、建設業▲66.6(同▲68.7)、卸小売業▲58.6(同▲59.2)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.0(前月水準▲46.5)となり、マイナス幅が△11.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種において、マイナス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、サービス業▲37.5(同▲60.0)、建設業▲40.0(同▲56.2)、卸小売業▲34.4(同▲40.7)、製造業▲29.4(同▲33.3)である。特に、サービス業はマイナス幅が△22.5ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成21年5月業況DI値(前年同月比)の推移

	12月	平成21年		3月	4月	5月	先行き見通し	
		1月	2月				6月~8月	5月~7月
全産業	▲63.6	▲65.3	▲74.3	▲68.4	▲64.3	▲59.7	▲35.0 (▲46.5)	
建設	▲50.0	▲80.0	▲58.8	▲78.5	▲68.7	▲66.6	▲40.0 (▲56.2)	
製造	▲68.7	▲66.6	▲88.8	▲73.3	▲66.6	▲58.8	▲29.4 (▲33.3)	
卸・小売	▲62.5	▲56.6	▲74.1	▲60.0	▲59.2	▲58.6	▲34.4 (▲40.7)	
サービス	▲70.5	▲66.6	▲75.0	▲70.5	▲66.6	▲56.2	▲37.5 (▲60.0)	



【平成21年5月の売上についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲51.9(前月水準▲49.3)となり、マイナス幅が▲2.6ポイント拡大した。

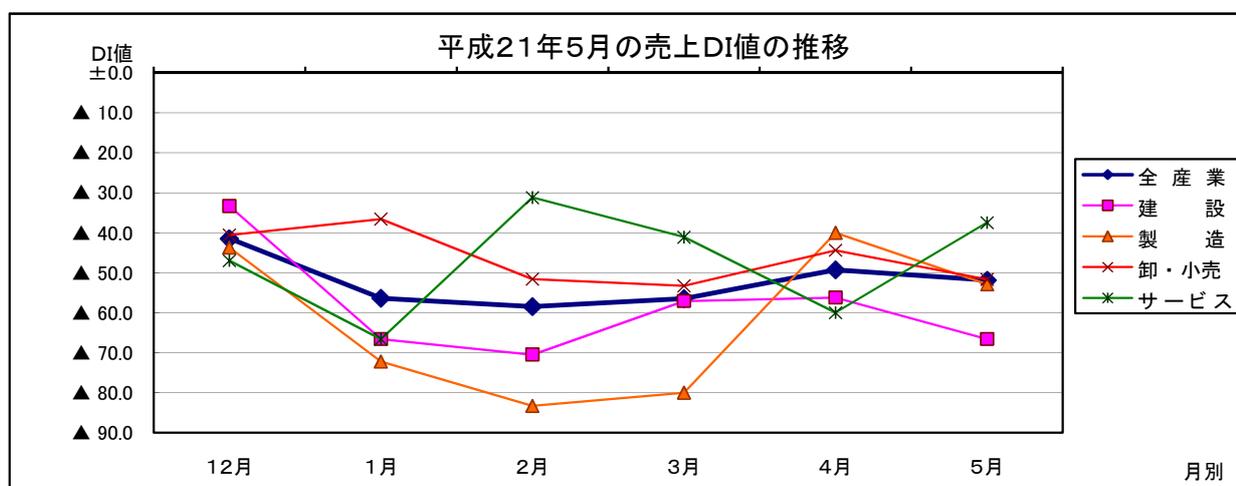
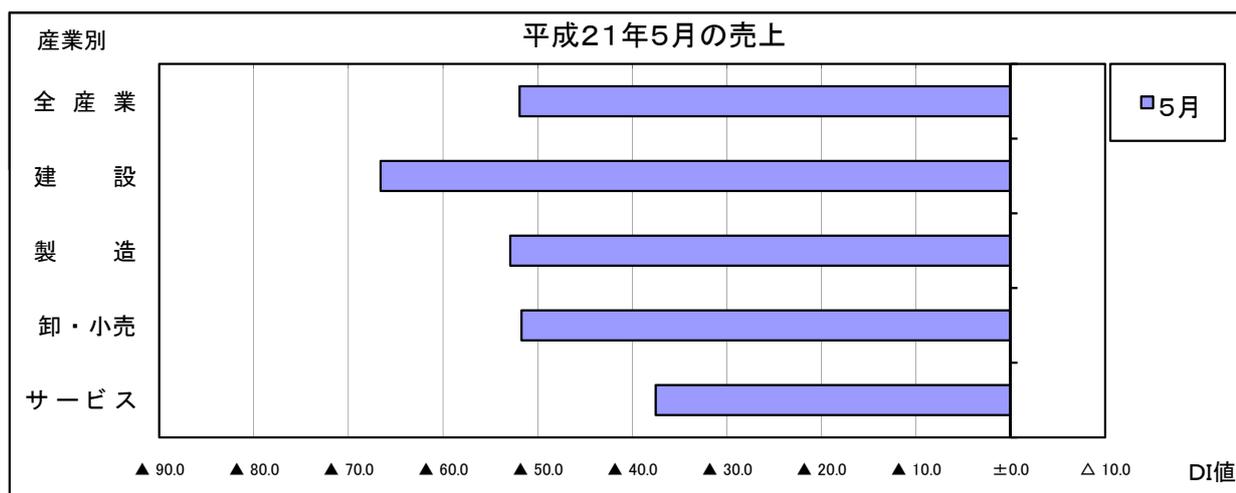
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲37.5(同▲60.0)であり、マイナス幅が△22.5ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲52.9(同▲40.0)、建設業▲66.6(同▲56.2)、卸小売業▲51.7(同▲44.4)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲33.7(前月水準▲49.3)となり、プラスマイナス幅が△15.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種において、マイナス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、サービス業▲31.2(同▲60.0)、卸小売業▲31.0(同▲51.8)、製造業▲29.4(同▲33.3)、建設業▲46.6(同▲50.0)である。特に、サービス業はマイナス幅が△28.8ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成21年5月の売上DI値(前年同月比)の推移

	12月	平成21年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲41.5	▲56.4	▲58.5	▲56.5	▲49.3	▲51.9	▲33.7(▲49.3)
建設	▲33.3	▲66.6	▲70.5	▲57.1	▲56.2	▲66.6	▲46.6(▲50.0)
製造	▲43.7	▲72.2	▲83.3	▲80.0	▲40.0	▲52.9	▲29.4(▲33.3)
卸・小売	▲40.6	▲36.6	▲51.6	▲53.3	▲44.4	▲51.7	▲31.0(▲51.8)
サービス	▲47.0	▲66.6	▲31.2	▲41.1	▲60.0	▲37.5	▲31.2(▲60.0)



【平成21年5月の採算についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲62.3(前月水準▲57.5)となり、マイナス幅が▲4.8ポイント拡大した。

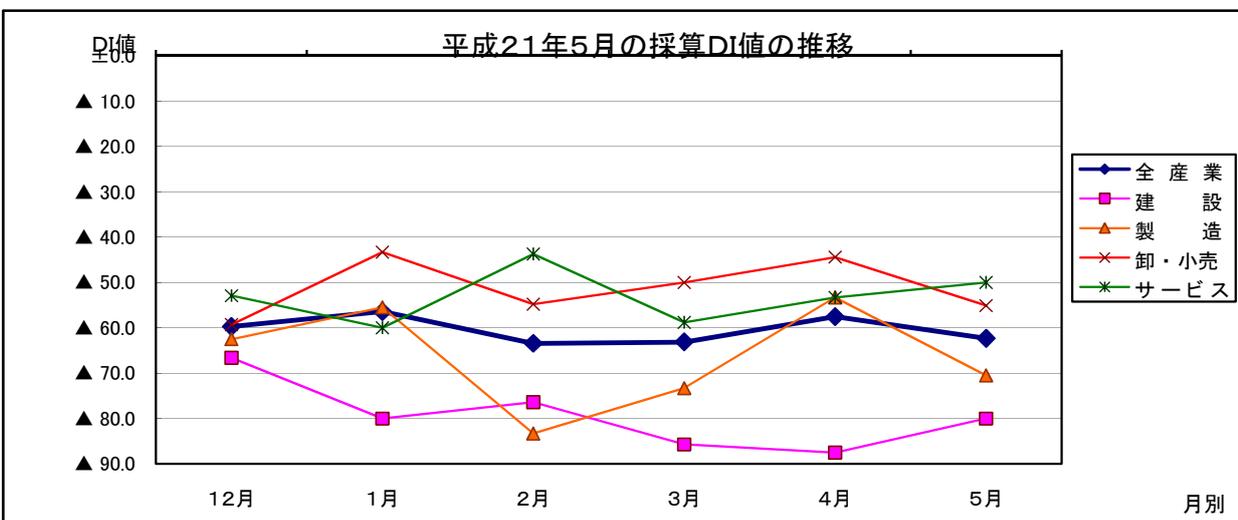
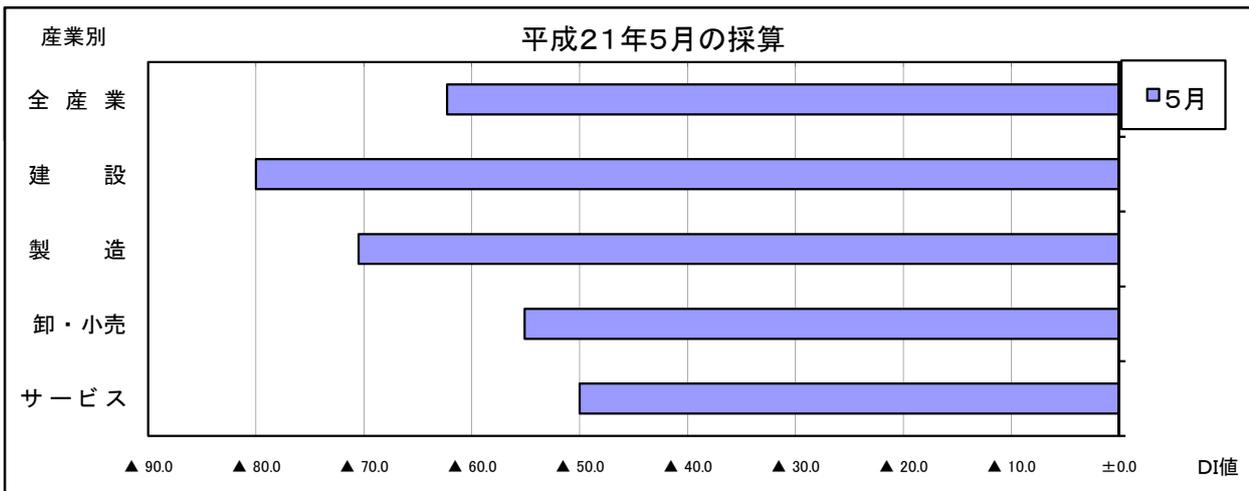
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲80.0(同▲87.5)、サービス業▲50.0(同▲53.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲70.5(同▲53.3±)、卸小売業▲55.1(同▲44.4)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.3(前月水準▲53.4)となり、マイナス幅が△17.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種において、マイナス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、サービス業▲25.0(同▲53.3)、卸小売業▲34.4(同▲51.8)、製造業▲29.4(同▲40.0)、建設業▲60.0(同▲68.7)である。特に、サービス業はマイナス幅が△28.3ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成21年5月の採算DI値(前年同月比)の推移

	12月	平成21年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲59.7	▲56.4	▲63.4	▲63.1	▲57.5	▲62.3	▲36.3(▲53.4)
建設	▲66.6	▲80.0	▲76.4	▲85.7	▲87.5	▲80.0	▲60.0(▲68.7)
製造	▲62.5	▲55.5	▲83.3	▲73.3	▲53.3	▲70.5	▲29.4(▲40.0)
卸・小売	▲59.3	▲43.3	▲54.8	▲50.0	▲44.4	▲55.1	▲34.4(▲51.8)
サービス	▲52.9	▲60.0	▲43.7	▲58.8	▲53.3	▲50.0	▲25.0(▲53.3)



【平成21年5月の仕入単価についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2.5(前月水準▲13.6)となり、マイナス幅が△11.1ポイント縮小した。

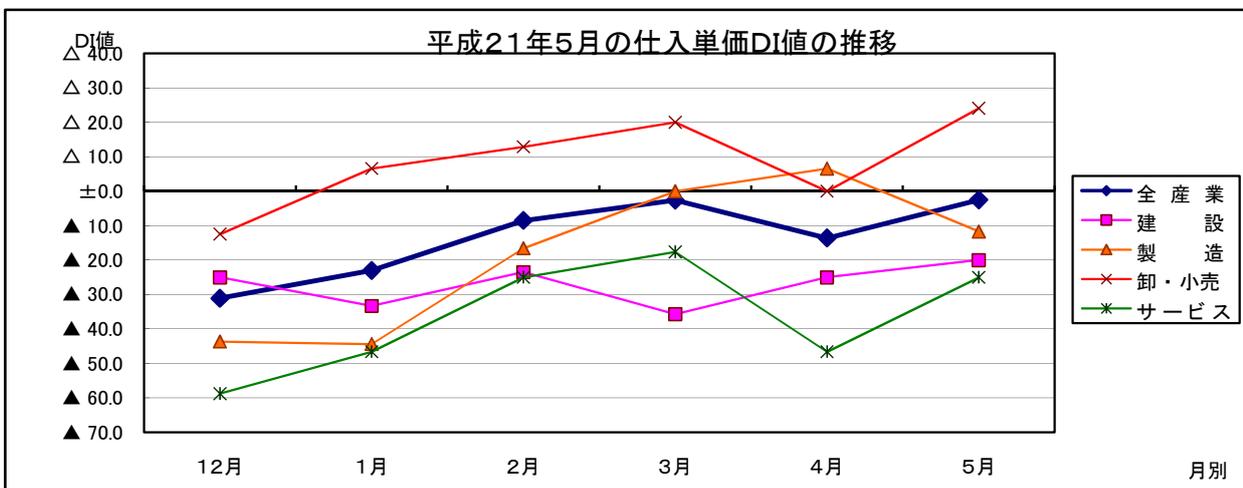
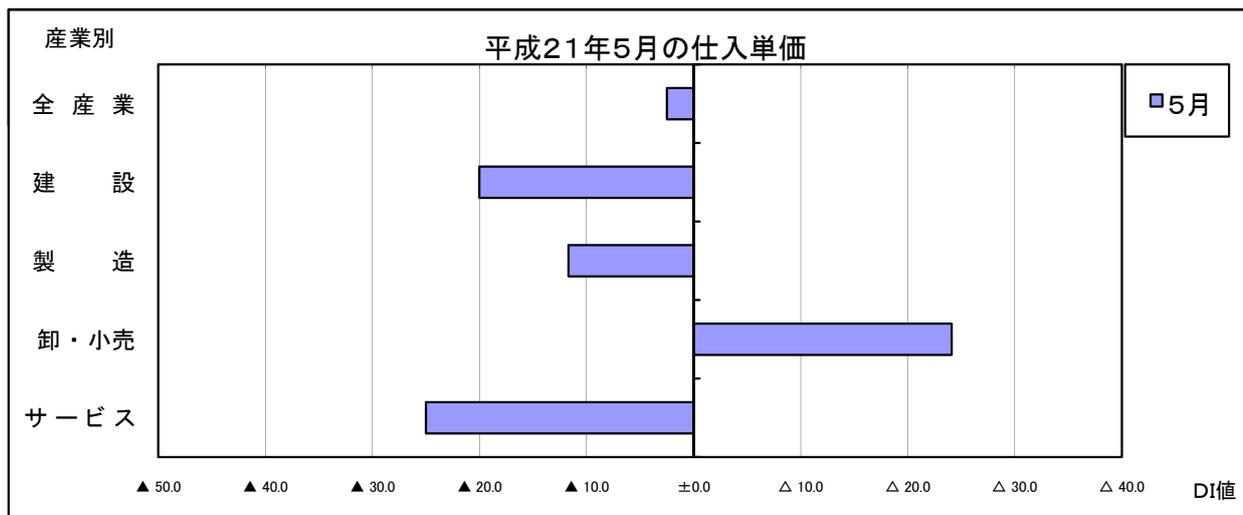
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△24.1(同±0.0)で、△24.1ポイント拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲25.0(同▲46.6)、建設業▲20.0(同▲25.0)である。特に、サービス業はマイナス幅が△21.6ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲11.7(同△6.6)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.8(前月水準▲4.1)となり、マイナス幅が△0.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲31.2±(同▲40.0)、建設業▲6.6(同▲12.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△5.8(同△20.0)、卸小売業△6.8(同△7.4)である。

平成21年5月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	12月	平成21年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲31.1	▲23.0	▲8.5	▲2.6	▲13.6	▲2.5	▲3.8(▲4.1)
建設	▲25.0	▲33.3	▲23.5	▲35.7	▲25.0	▲20.0	▲6.6(▲12.5)
製造	▲43.7	▲44.4	▲16.6	±0.0	△6.6	▲11.7	△5.8(△20.0)
卸・小売	▲12.5	△6.6	△12.9	△20.0	±0.0	△24.1	△6.8(△7.4)
サービス	▲58.8	▲46.6	▲25.0	▲17.6	▲46.6	▲25.0	▲31.2(▲40.0)



【平成21年5月の従業員についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.2(前月水準▲8.2)となり、マイナス幅が▲6.0ポイント拡大した。

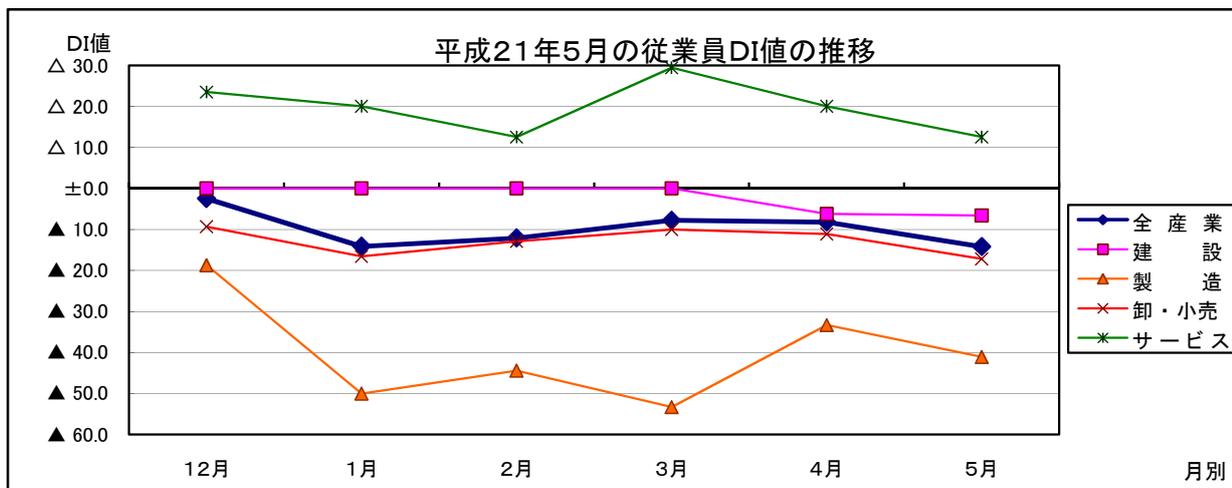
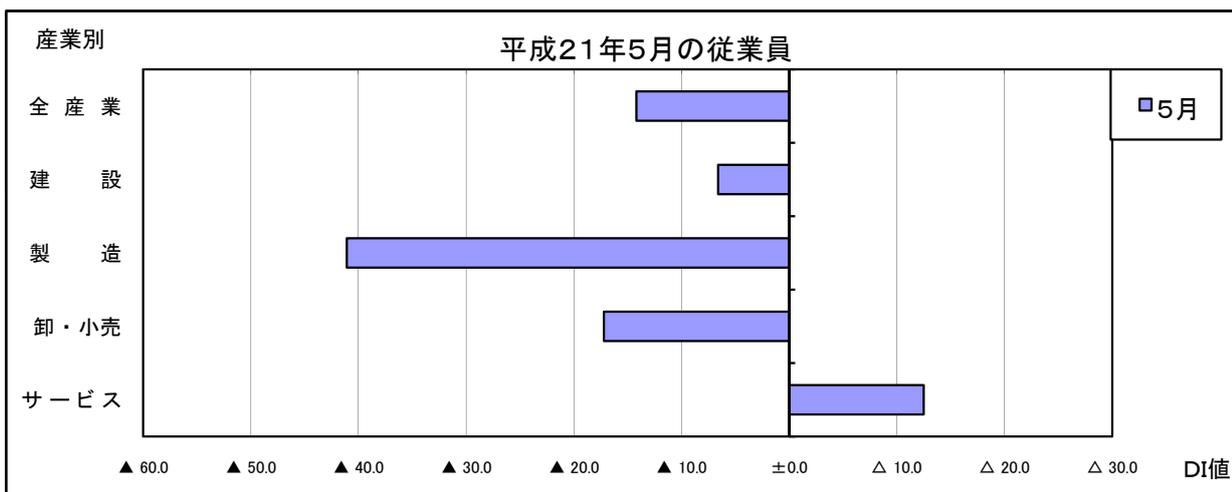
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、サービス業△12.5(同△20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲41.1(同▲33.3)、卸小売業▲17.2(同▲11.1)、建設業▲6.6(同▲6.2)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.4(前月水準▲12.3)となり、マイナス幅が▲7.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△12.5(同△20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲52.9(同▲40.0)、建設業▲13.3(同▲6.2)、卸小売業▲20.6(同▲18.5)である。

平成21年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成21年						先行き見通し
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月～8月(5月～7月)
全産業	▲2.5	▲14.1	▲12.1	▲7.8	▲8.2	▲14.2	▲19.4(▲12.3)
建設	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0	▲6.2	▲6.6	▲13.3(▲6.2)
製造	▲18.7	▲50.0	▲44.4	▲53.3	▲33.3	▲41.1	▲52.9(▲40.0)
卸・小売	▲9.3	▲16.6	▲12.9	▲10.0	▲11.1	▲17.2	▲20.6(▲18.5)
サービス	△23.5	△20.0	△12.5	△29.4	△20.0	△12.5	△12.5(△20.0)



【平成21年5月の資金繰りについての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲37.6(前月水準▲36.9)となり、マイナス幅が▲0.7ポイント拡大した。

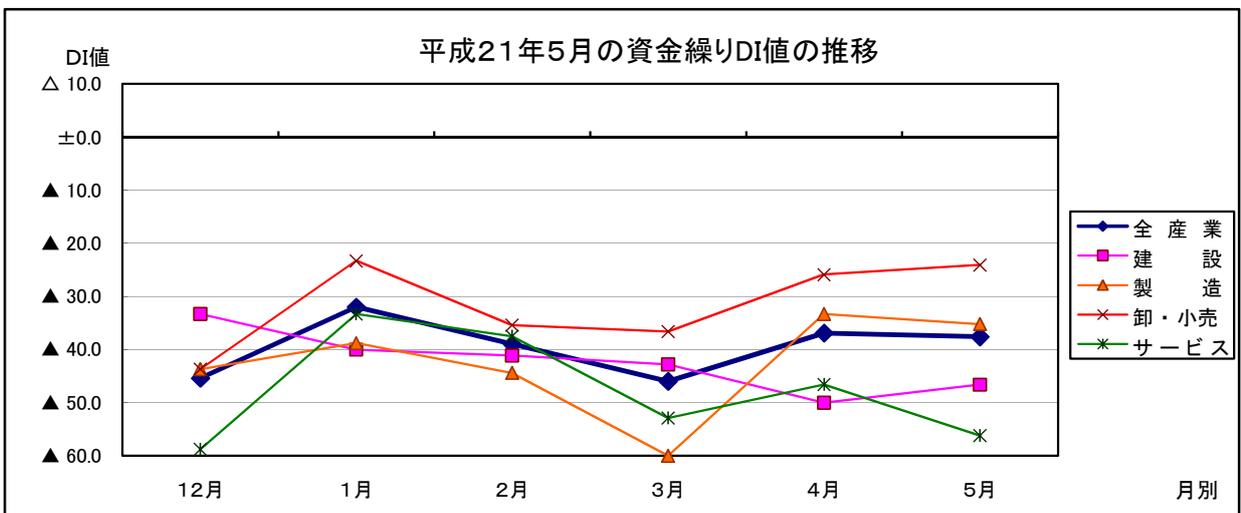
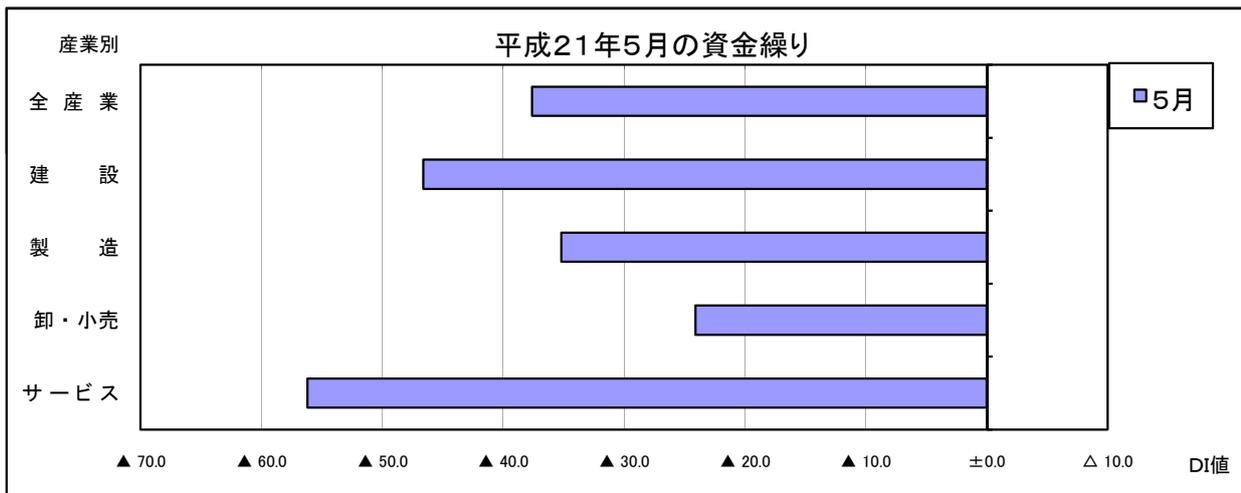
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲46.6(同▲50.0)、卸小売業▲24.1(同▲25.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲56.2(同▲46.6)、製造業▲35.2(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.3(前月水準▲27.3)となり、マイナス幅が△4.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲17.2(同▲33.3)、建設業▲20.0(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲17.6(同▲6.6)、サービス業▲43.7(同▲40.0)である。

平成21年5月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	12月	平成21年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲45.4	▲32.0	▲39.0	▲46.0	▲36.9	▲37.6	▲23.3(▲27.3)
建設	▲33.3	▲40.0	▲41.1	▲42.8	▲50.0	▲46.6	▲20.0(▲25.0)
製造	▲43.7	▲38.8	▲44.4	▲60.0	▲33.3	▲35.2	▲17.6(▲6.6)
卸・小売	▲43.7	▲23.3	▲35.4	▲36.6	▲25.9	▲24.1	▲17.2(▲33.3)
サービス	▲58.8	▲33.3	▲37.5	▲52.9	▲46.6	▲56.2	▲43.7(▲40.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 51.9	▲ 33.7	▲ 62.3	▲ 36.3	▲ 2.5	▲ 3.8	▲ 14.2	▲ 19.4
建設	▲ 66.6	▲ 46.6	▲ 80.0	▲ 60.0	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 13.3
製造	▲ 52.9	▲ 29.4	▲ 70.5	▲ 29.4	▲ 11.7	△ 5.8	▲ 41.1	▲ 52.9
卸・小売	▲ 51.7	▲ 31.0	▲ 55.1	▲ 34.4	△ 24.1	△ 6.8	▲ 17.2	▲ 20.6
サービス	▲ 37.5	▲ 31.2	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 31.2	△ 12.5	△ 12.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 59.7	▲ 35.0	▲ 37.6	▲ 23.3
建設	▲ 66.6	▲ 40.0	▲ 46.6	▲ 20.0
製造	▲ 58.8	▲ 29.4	▲ 35.2	▲ 17.6
卸・小売	▲ 58.6	▲ 34.4	▲ 24.1	▲ 17.2
サービス	▲ 56.2	▲ 37.5	▲ 56.2	▲ 43.7

【平成21年5月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	柏市発注時期が他市より早かったのは予定を組みやすく業者も抑えられたので、よかった。	公共工事	一般土木建築工事業
	経済情勢に加えて、インフルエンザ等暗いニュースばかり目立ちます。業況は厳しい状態が続きます。光を探すより一層の努力が必要です。	新型インフルエンザ 厳しい業況	板金・金物工事業
	定額給付金の支給日の不明瞭さや金額が少額なため、期待が全くできない。支給された他市でも経済効果があったという話がないので、当市でも効果は無いと考えている。	定額給付金 経済効果	管工事業(さく井を除く)
	材料は値下がりのしたものの、仕事が無く業界全体が閉塞状態。公共工事の効果はまだ表れていない。新型インフルエンザ等の心理的影響なのか活気がなく、街全体が停止しているようだ。	材料値下げ 公共工事 仕事量減少 新型インフルエンザ	電気工事業
工業	改善の兆しはまだ見えない。低水準で推移。ここ数カ月が低値のピークと思われる。	業況低調	その他の鉄鋼業
	建築基準法昇降機安全基準改正により、認定に向け人・物ともに大きな経費負担増となる。	建築基準法 経費負担増	一般産業用機械設備製造業
	業界内まだまだ厳しい状況が続いているが、ETC割引、定額給付金等の経済活性化効果に期待。	厳しい業況 ETC割引 定額給付金	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	販売単価の前年比が、購買客数の前年比を下回る状態が続いています。そもそも財布のひもが固いのですが、財布を開いてもより低価格を志向しているあらわれと思われ。定額給付金等は必ずしも景気を刺激するとは言えないようです。今夏のボーナスが軒並み前年を大きく割り込んでいることを考えると、今後についても期待できないように思われます。	販売単価低下 低価格志向 定額給付金 賞与引き下げ	百貨店
	昨今の野菜入荷状況は、増加傾向にあるが、単価安となっています。果実は一部に安価取引もあるが、他は入荷減単価高の動きです。全体的に入荷減、取引減と厳しい状況です。また、BCP対策を検討している中、新型インフルエンザが国内で発生していることを踏まえて、食の安全安心に携わる業界として、迅速な情報と対応策で推進していきます。	野菜入荷増単価安 食の安全 厳しい業況 新型インフルエンザ	食料・飲料卸売業
	客数は微増。ただし客単価の減少があり、売上は横ばい。前年月中旬にあったセール先の先送りの影響もある。	客数微増 売上横ばい セール先送り	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	原油価格が比較的落ち着いている点と、非需要期に入り、原産国が弱含みで推移しているため、改定要因が整ったため、6月から還元できる見込み。売り上げ減少分は保安点検で古い器具(不良品など)の交換を説明し、販売増につなげる指導を社員にした。	原油価格安定 非需要期 保安点検	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	新型インフルエンザに対する過剰な対応のため人出が減少している。毒性等を早急に見極め適切な方針を政府が打ち出すべき。	新型インフルエンザ 人出減少	書籍・文房具小売業
	GWの入出は思ったよりも多く、景気の悪さが近場しにぎにかわったのか?という感がありました。	ゴールデンウィーク	花、植木小売業
	商品が夏もの変わったばかりではあるが、既に値下げが始まっている。GW期間中の来街者は前年より少なかった。	夏物商戦 価格値下げ ゴールデンウィーク 人出減少	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	5月度GW商戦は期間中、多種多様なキャンペーンを実施したことから、入店客数は前年並みに推移したものの、売上高は依然続く客単価の低下から苦戦した。GW明けも売上高は天候に左右される日が多く伸び悩んでいる。また、週末(特に日曜日)の落ち込みが大きく、高速道路通行料金割引など影響が考えられる。月末にかけては大きなイベントもなく、苦戦が予想される。	ゴールデンウィーク 客単価低下 売上苦戦 天候の影響 週末売上低下 ETC割引	各種商品小売業

【平成21年5月の業種別業界内トピックス】

	消費者の財布の口がかたい。プラスアルファの買い物をしなくなっている。すなわち、最低限の買い物しかしなくなっている。	買い控え	書籍・文房具小売業
	新型インフルエンザによる消費者の買い控えがこれから少しずつ進んでいく気配です	新型インフルエンザ 買い控え	食肉小売業
	家庭内での慶弔などの簡略化や少人数化が進んでいる(来客の減少)	慶弔の簡略化 来客数の減少	食堂・レストラン
	前年比予算比とも稼働減特に企業から宿泊減。前年比予算とも減。企業のセミナー・会議・展示会が大きく減少。	宿泊減少 会議展示会減少	ホテル
サービス	新メニューを投入し、値下げは今のところ考えていない。共通商品券に多少効果を期待。店独自でもプレミアを考えている。インフルエンザによる影響で、宴会予約の取りやめがあった。	共通商品券 新型インフルエンザ	酒場・ビヤホール
	新型インフルエンザの流行と過剰と思われるような日本の反応により、関西の方で人の動きが制限されています。このことにより、経済の停滞につながるものが心配です。	新型インフルエンザ 経済の停滞	獣医業

◎新型インフルエンザの影響

- ・ 新型インフルエンザ等の心理的影響なのか活気がなく、街全体が停止しているようだ。 電気工事業
- ・ 新型インフルエンザに対する過剰な対応のため人出が減少している。毒性等を早急に見極め適切な方針を政府が打ち出すべき。 書籍・文房具小売業
- ・ 新型インフルエンザによる消費者の買い控えがこれから少しずつ進んでいく気配です 食肉小売業
- ・ 新型インフルエンザの流行と過剰と思われるような日本の反応により、関西の方で人の動きが制限されています。このことにより、経済の停滞につながる事が心配です。 獣医業

◎経済活性化施策

- ・ 定額給付金の支給日の不明瞭さや金額が少額なため、期待が全くできない。支給された他市でも経済効果があったという話がないので、当市でも効果は無いと考えている。 管工事業(さく井を除く)
- ・ 定額給付金等は必ずしも景気を刺激するとは言えないようです。今夏のボーナスが軒並み前年を大きく割り込んでいることを考えると、今後についても期待できないように思われます。 百貨店
- ・ 週末(特に日曜日)の落ち込みが大きく、高速道路通行料金割引など影響が考えられる。 各種商品小売業
- ・ 共通商品券に多少効果を期待。店独自でもプレミアを考えている。 酒場・ビヤホール

◎厳しい業況

- ・ 経済情勢に加えて、インフルエンザ等暗いニュースばかり目立ちます。業況は厳しい状態が続きます。光を探すより一層の努力が必要です。 板金・金物工事業
- ・ 業界内まだまだ厳しい状況が続いているが、ETC割引、定額給付金等の経済活性化効果に期待。 その他の機械・同部分品製造業
- ・ 昨今の野菜入荷状況は、増加傾向にあるが、単価安となっています。果実は一部に安価取引もあるが、他は入荷減単価高の動きです。全体的に入荷減、取引減と厳しい状況です。 食料・飲料卸売業

平成21年5月のCCI LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲59.7に対し、「CCI-LOBO」が▲65.7で、柏の方がマイナス幅が6.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良く、製造業は10ポイント以上良い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲51.9に対し、「CCI-LOBO」が▲63.2で、柏の方がマイナス幅が11.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良く、製造業・卸小売業は10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲62.3に対し、「CCI-LOBO」が▲61.0で、柏の方がマイナス幅が1.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業・サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業で、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲2.5に対し、「CCI-LOBO」が▲13.6で、柏の方がマイナス幅が11.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業、卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業で、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.2に対し、「CCI-LOBO」が▲21.2で、柏の方がマイナス幅が7.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲37.6に対し、「CCI-LOBO」が▲43.1で、柏の方がマイナス幅が5.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、製造業・卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業。

平成21年5月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 59.7	 66.6	 58.8	 58.6	 56.2
CCI LOBO	 65.7	 71.6	 69.1	 66.2	 57.7

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 51.9	 66.6	 52.9	 51.7	 37.5
CCI LOBO	 63.2	 69.3	 68.2	 60.8	 60.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 62.3	 80.0	 70.5	 55.1	 50.0
CCI LOBO	 61.0	 64.7	 68.2	 59.3	 56.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 2.5	 20.0	 11.7	 24.1	 25.0
CCI LOBO	 13.6	 22.3	 12.3	 9.8	 14.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 14.2	 6.6	 41.1	 17.2	 12.5
CCI LOBO	 21.2	 39.5	 31.7	 10.7	 11.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 37.6	 46.6	 35.2	 24.1	 56.2
CCI LOBO	 43.1	 51.3	 52.7	 34.8	 38.2

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(5月の調査結果のポイント)

調査期間：平成21年5月18日～22日

調査対象：柏市内 107 事業所及び組合にヒアリング、回答数 77

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲63.6	▲50.0	▲68.7	▲62.5	▲70.5
1月	▲65.3	▲80.0	▲66.6	▲56.6	▲66.6
2月	▲74.3	▲58.8	▲88.8	▲74.1	▲75.0
3月	▲68.4	▲78.5	▲73.3	▲60.0	▲70.5
4月	▲64.3	▲68.7	▲66.6	▲59.2	▲66.6
5月	▲59.7	▲66.6	▲58.8	▲58.6	▲56.2
見通し	▲35.0	▲40.0	▲29.4	▲34.4	▲37.5

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iは先月に続き回復
新型インフルエンザ等不安
要素あり

5月の全産業合計のD I値
(前年同月比ベース以下同じ)
は 59.7(前月水準 64.3)となり、マイナス幅が

4.6ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種において、マイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、サービス業

56.2(同 66.6)、製

造業 58.8(同 66.6)、建設業 66.6(同 68.8)。

7、卸小売業 58.6(同 59.2)である。

【建設業】では、「柏市発注時期が他市より早かったのは予定を組みやすく業者も抑えられたので、よかった」(一般土木建築工事業)、「材料は値下がりしたものの、仕事が無く業員全体が閉塞状態。公共工事の効果はまだ表れていない」(電気事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「改善の兆しはまだ見えない。低水準で推移。この数カ月が低値のピークと思われる」(その他の鉄鋼業)、「建築基準法昇降機安全基準改正により、認定に向け人・物ともに大きな経費負担となる」(一般産業用機械設備製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「販売単価の前年比が、購買客数の前年比を下回る状態が続いています。そもそも財布のひもが固いのですが、財布を開いてもより低価格を志向しているあらわれとされます」(百貨店)、「客数は微増。ただし客単価の減少があり、売上は横ばい。前年月中旬にあったセールの先送りの影響もある」(その他の各種商品小売業)、「原油価格が比較的落ち着いている点で、非需要期に入り、原産国が弱含みで推移しているため、改定要因が整ったため、6月から還元できる見込み。売り上げ減少分は保安点検で古い器具(不良品など)の交換を説明し、販売増につなげる指導を社員にした」(燃料小売業)、「商品が夏もの変わったばかりで

はあるが既に値下げが始まっている。GW期間中の来街者は前年より少なかった」(その他の各種商品小売業)、「売上高は依然続く客単価の低下から苦戦した。GW明けも売上高は天候に左右される口が多く伸び悩んでいる」(各種商品小売業)、「消費者の財布の口がかたい。プラスアルファの買い物をしなくなっている。すなわち、最低限の買い物しかなくなっている」(書籍・文房具小売業)など多くのコメントが寄せられた。

【サービス業】では、「家庭内での慶弔などの簡略化や少人数化が進んでいる(来客の減少)」、「食堂・レストラン」の前年比予算比とも稼働減特に企業から宿泊減。前年比予算とも減。企業のセミナー・会議・展覧会が大きく減少(ホテル)などのコメントがあった。

5月の景気キーワード

新型インフルエンザの影響

5月にかけて大きく広がりを見せた、新型インフルエンザの影響について多くの業種から、「新型インフルエンザ等の心理的影響なのか活気がなく街全体が停滞しているようだ」(電気工業)、「新型インフルエンザに対する過剰な対応のため人出が減少している。毒性等を早急に見極め適切な方針を政府が打ち出すへ

き」(書籍・文房具小売業)、「新型インフルエンザによる消費者の買い控えがこれから少しずつ進んでいく心配です」(食肉小売業)、「新型インフルエンザの流行と過剰と思われるような日本の反応により、関西の方で人の動きが制限されています。このことにより、経済の停滞につながる心が心配です」(飲食業)など、インフルエンザそのものに対する不安のみならず、それによって起る経済の停滞を心配する声が多くなっていた。

経済活性化施策

「定額給付金の支給日の不明瞭さや金額が少額なため、期待が全くできない。支給された他市でも経済効果があったという話がないので、当市でも効果は無いと考えている」(管工事業) (さく井を除く)、「定額給付金等は必ずしも景気を刺激するとは言えないようです。今夏のボーナスが軒並み前年を大きく割り込んでいることを考えると、今後についても期待できないように思われます」(百貨店)、「週末(特に日曜日)の落ち込みが大きく、高速道路通行料金割引など影響が考えられる」(各種商品小売業) (各種商品小売業) など、さまざまな経済活性化の対策が施行されている中で、期待薄や悪影響などのコメントが多かったが、「共通商品券に多少効

果を期待。店独自でもプレミアムを考えている」(酒場・ビヤホール)のようなコメントもあった。

厳しい業況

「経済情勢に加えて、インフルエンザ等暗いニュースばかり目立ちます。業況は厳しい状態が続きます。光を探すより一層の努力が必要です」(板金・金物工業)、「業界内まだまだ厳しい状況が続いているが、ETC割引、定額給付金等の経済活性化効果に期待」(その他の機械・同部品品製造業)、「昨今の野菜入荷状況は増加傾向にあるが、単価安となっています。果実の一部に安値取引もあるが、他は入荷減単価高の動きです。全体的に入荷減、取引減と厳しい状況です」(食料・飲料卸売業) など、依然として厳しい業況におかれていますことを表す声も寄せられた。

CCI LOBOVの比較

全産業合計では、「柏の景気」が 59.7に対し、「CCI LOBOV」が 65.7で、柏の方がマイナス幅が6.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良く、製造業は10ポイント以上良い。

CCIO - L O B O

商工会議所早期景気観測(5月速報)

調査期間：平成21年5月18日～22日

調査対象：全国の406商工会議所が2584業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、マイナス幅は大幅縮小、3カ月連続の改善

5月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は65.7となり、前月に比べ+4.7ポイントとマイナス幅が大幅に縮小した。依然として厳しい状況が続いているものの、3カ月連続でマイナス幅は縮小するなど、底打ちへの期待がさらに増してきた。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、すべての業種で依然厳しい水準ながら、建設業を除くすべての業種でマイナス幅は縮小した。

景況に関する声、当面の問題としては、世界的な景気悪化の影響により、建設業、製造業を中心に、厳しい状況を訴える声が多い。先行きについて、在庫調整の進展による生産の下げ止まり、高速道路料金の値下げや定額給付金の効果、公共工事に期待する声も寄せられている。一方で、新型インフルエンザの感染拡大による受注や売上の減少、雇用情勢の更なる悪化など引き続き厳しい状況を訴える声もある。

【建設業】公共工事の前倒し実施は行われていない(一般

工事業)、「夏の終わりから秋にかけて仕事のない月が続く(土木工事業)」、「公共・民間工事も非常に厳しい。近々廃業する事業所も少なくない(建築工事業)」

【製造業】「住宅着工数の激減と極端な値引きに苦慮(製材木製品製造業)」、「在庫調整による大幅な減産は終わったが、依然厳しい状況(自動車・同附属品製造業)」、「携帯部品・電子部品関連は、在庫調整が進み稼働率が約70%程度まで回復(陶磁器・同関連製品製造業)」

【卸売業】「マスクやアルコール消毒液などインフルエンザ関連商品の売上が好調(各種商品卸売業)」、「ますます消費者の低価格指向が進んでいる(衣服・身の回り品卸売業)」、「売上が下げ止まらず、前年同月比10%以上減少。体力勝負となっている(鉱物金属材料卸売業)」

【小売業】「新型インフルエンザの影響で食品は備蓄できるものは売上増、生鮮品は減少(百貨店)」、「夏のボーナス(その他の小売業)」、「定額給付金を活用した商品券の効果で商店街の来客数が増加(商店街)」

【サービス業】「高速道路料金値下げの効果で利用客が増加。土日に期待(食堂・レストラン)」

トラン)、「新型インフルエンザの感染拡大により、宿泊などのキャンセルが止まらない(旅館)」、「燃料価格が上昇傾向にあり、業況の悪化を予想(その他サービス業)」

五月のキーワード

雇用情勢のさらなる悪化

依然低調な売上等で業況悪化の影響から、雇用の過剰感や賃金削減の実施に関する声が多い。建設業からは、「受注の大幅減の影響で従業員を削減した企業が増加(土佐清水・建築事業)」、製造業からは、「4月から仕事量が半減(中小企業緊急雇用安定助成金の利用を開始したが、助成金・融資等では追いつかないほど業況は悪化。一層の経済対策を望む(水戸・金属加工機械製造業)」、「従業員の一時帰休を月平均5日実施(船橋・一般産業用機械製造業)」

卸売業からは、「収益改善に向けて、リストラを行う必要がある(鹿児島・各種商品卸売業)」、サービス業からは、「時短等を実施し従業員を解雇せず雇用を維持している(三木・その他の一般飲食店)などの声も寄せられている。

【経済対策に対する期待感】定額給付金や高速道路料金値下げなど政府が打ち出している大型経済対策による景気底入れへの期待感が引き続き寄せられている。製造業からは、「住宅ローン減税と贈与税減税等が経済対策に盛り

込まれた。需要回復につながってほしい(松阪・製材木製品製造業)」、「小売業からは、「定額給付金の支給、プレミアム商品券の発行により売上が4月から5月上旬にかけてやや好調(龍野・商店街)」、「ポイントによる家電売上が増加。若干のプラス効果が出てきている(藤・百貨店)」、サービス業からは、「高速道路料金割引で来客が増え、売上は15%〜20%増加(須崎・食堂・レストラン)などの声がある。

一方で、「当地区では公共工事の前倒しはまったくない(大町・一般工事業)」、「4月以降、公共工事・民間工事も新規受注は先延ばし、凍結され、受注が伸びていない(豊田・一般工事業)」、「公共工事前倒し実施がされているとは思えない(観音寺・建築工事業)」といった景気対策の早期実施を求める声も多い。

新型インフルエンザの影響

新型インフルエンザの国内での感染拡大に伴い、悪影響を懸念する声や深刻な影響が出始めているとの声も寄せられている。卸売業からは、「新型インフルエンザの感染拡大を受けて、学校給食、観光地をはじめ外食関係の商品供給が減少(豊岡・農畜産水産物卸業)」、「小売業からは、「新型インフルエンザ対策商品は売れているが入手困難な状態(半田・百貨店)」、「外出控えによる、売上の減少を懸念(八王子・商店街)」、「人通りが減少(倉吉・商店街)」、サ

ービス業からは、「修学旅行のキャンセルや延期が大量に発生。ホテルによっては全館空室の日もある(那覇・旅館)」、「感染警戒により客数が減少(池田・公衆浴場)などの声があった。

また、会員企業に新型インフルエンザに関する緊急アンケートを実施した加古川商工会議所からは、「顧客から面談を先送りされた」、「マスクが入手困難のため営業行為を自粛せざるを得なかった」、「学校等の一斉休校により女性従業員等の出勤が困難になり生産能力が落ちた」という報告もあった。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲70.2	▲74.2	▲72.7	▲67.6	▲69.2	▲67.3
1月	▲71.3	▲73.2	▲72.5	▲71.6	▲70.6	▲69.6
2月	▲73.4	▲75.8	▲75.6	▲71.1	▲71.5	▲72.6
3月	▲72.8	▲72.1	▲73.5	▲70.5	▲75.5	▲70.2
4月	▲70.4	▲70.9	▲74.4	▲66.7	▲70.9	▲66.9
5月	▲65.7	▲71.6	▲69.1	▲66.2	▲66.2	▲57.7
見通し	▲53.9	▲60.8	▲51.3	▲50.0	▲55.9	▲51.3

「見通し」は当月水準に比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI